

11月10日は「漆塗りのお椀でご飯をいただく記念日」

日本漆器協同組合連合会では、令和3年8月27日の理事会において、11月10日を「漆塗りのお椀でご飯をいただく記念日」(めしまりの日)と制定いたしました。

11月10日(1、1、1、0)は、One(椀)、One、One、マリの日。伝統的な和食では一般的だった一汁一菜で必要なお椀(マリ)三個の語呂合わせです。

新鮮な野菜と少しのタンパク質で、健康に良い和食文化を漆器から再発信するもので、和食の歴史を考えて、陶磁器やガラスなどと同じように、自分にあった漆塗りのお椀で、家族と、恋人と、気心の知れた仲間と、炊き立てのご飯を食べていただきたい、そんな想いで制定しました。

木製のお椀は熱を伝えにくいので、炊き立てのご飯ならほんのり温もりを感じることができます。また、漆には抗菌性が認められていることから衛生的で、修理も可能な木製の漆塗りのお椀は、LOHASな生活にピッタリです。

かつて西欧人が憧れ、日本の伝統的文化を代表するものとして今日に受け継がれてきた漆器を日常の食卓に加えてみてください。

また、11月は漆器に関する記念日がいくつか制定されていることから、11月8日からの約1週間は、新たな漆器週間としてスタートします。



11月8日(刃物の日)

118(いいは)の語呂合わせと、刀鍛冶・鑄物師が11月8日(旧暦の霜月8日=伏見稻荷の火焚祭の日)に鍛冶場の鞆(ふいご)の火の神を祀る鞆祭(稻荷神などに参拝)を行っていたことから、岐阜県関市・岐阜県関刃物産業連合会・新潟三条庖丁連・越前打破物協同組合・東京刃物工業協同組合・京都利器工具組合・高知土佐山田商工会・島根県吉田村・堺刃物商工業協同組合連合会が制定。有名な紀伊国屋文左衛門の江戸へのみかんの海上輸送は、当時江戸で盛んだった鞆祭にめがけて、必要とされるミカンを用立てたもの。お椀を作る轆轤師は鞆で刃物を作るので、東京藝術大学漆芸研究室では昭和45年から祭事を行なっている。

11月11日(箸の日)

2008年11月9日に東京藝術大学に中国、韓国、ミャンマー、ベトナム、台湾などの代表が集まり、国際箸文化研究所の発足と国際シンポジウムを行う。同年11月11日には国際箸の日として制定することを各国の理事が集まり宣言をする。宣言の一部「安全で美しく、正しい箸文化が世界各地に広がることで、人々が建国な食生活を送り、平和で安全な世になることを祈念してここに制定する」。平成21年(2009年)に出版された三田村有純著『お箸の秘密』にこれらの経緯が詳述しており、その後、韓国において数年にわたり国際箸シンポジウムが開催される。

11月13日(うるしの日)

文徳(もんとく)天皇の第一皇子惟喬(これたか)親王が京都・嵐山の法輪寺に参籠し、虚空蔵菩薩からうるしの製法、漆器の製造法を伝授されたのがこの日であるとされていることから、1985(昭和60)年に日本漆工協会が制定する。日本の伝統文化であるうるしの美しさを今一度見直して日本の心呼び戻すことを目的にしている。



日本漆器協同組合連合会

青森県漆器協同組合連合会 秋田県漆器工業協同組合 鳴子漆器協同組合 会津漆器協同組合
会津喜多方漆器商工協同組合 東京都漆器商工業協同組合 木曾漆器工業協同組合 村上堆朱事業協同組合
伝統工芸高岡漆器協同組合 輪島漆器商工業協同組合 山中漆器連合協同組合 金沢漆器商工業協同組合
越前漆器協同組合 紀州漆器協同組合 香川県漆器工業協同組合 社会福祉法人宮崎県大島振興協会